

平成 29（2017）年度 事業計画書

自 平成 29（2017）年 4月 1日
至 平成 30（2018）年 3月 31日

公益財団法人 九州盲導犬協会

平成 29 年度 事業計画書
(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

《 公益事業部門 》

- I. 盲導犬育成、貸与及び視覚障がい者の生活訓練等を行う総合訓練センターの運営事業
1. 視覚障がい者に対する盲導犬の貸与と生活訓練等の実施
 - (1) 視覚障がい者に対する歩行指導及び盲導犬貸与
今年度の盲導犬育成目標を 7 頭とし視覚障がい者に貸与する。
 - (2) 公正な盲導犬貸与
盲導犬貸与規程に基づく公正な盲導犬貸与を実施する。
 - (3) 盲導犬使用者（以下、ユーザーという。）に対するフォローアップ
ユーザーと盲導犬が安全・安心な歩行ができるよう、歩行指導員による適切なフォローアップを行いユーザーの生活をサポートする。

 2. 犬の飼育および訓練
 - (1) 繁殖
計画的な繁殖・出産により子犬を確保する。また AGBN（Asia Guide Dogs Breeding Network）加盟協会との繁殖協力の維持と発展に努める。
 - (2) パピーウォーキング
飼育講習会及び巡回指導等を通して、子犬の健康管理とパピーウォーカーに対する飼育指導を実施する。
 - (3) 候補犬の訓練
犬の稟性評価・健康評価を適正に行い、候補犬の訓練を実施する。
 - (4) 盲導犬の健康管理
フォローアップなどを通して盲導犬の健康状態の把握に努め、ユーザーが安心して盲導犬を使用できるよう健康管理の指導ならびに助言を行う。
 - (5) 繁殖犬・リタイア犬等のケア
飼育ボランティアおよび獣医師と連携しながら、それぞれの犬の健康管理に努める。
 - (6) 犬舎管理
犬舎担当職員・訓練士が連携して、犬舎の衛生管理および訓練犬の健康管理を徹底する。

 3. 盲導犬歩行指導員等の育成
 - (1) 全国盲導犬施設連合会の実施する盲導犬歩行指導員等資格認定に推薦できるレベルに達するよう、訓練士を計画的に指導育成する。
 - (2) 知識・技術の向上を目的に、盲導犬ジャパンセミナー及び各種研修会に職員を派遣するとともに、自己研鑽を奨励する。

 4. 関係団体との協力
日本盲人社会福祉施設協議会、全国盲導犬施設連合会、九州盲導犬友の会、県市社会福祉協議会等関係団体が行う福祉事業に協力する。

Ⅱ. 盲導犬を主体とした身体障害者補助犬の普及及び啓発事業

1. 視覚障がい者に対する普及啓発活動

視覚障がい者個人および団体等に対して、講演会ならびに盲導犬体験歩行会を実施し、盲導犬の普及に努める。

2. 盲導犬普及啓発街頭活動

RKB ラジオまつり・糸島市民まつり、各地区の国際ライオンズクラブ及び地域の団体等が主催する普及啓発イベントや募金活動に積極的に参加して、補助犬の受入れに対する理解を深める。

3. 実演・講演・体験歩行会の実施

行政及びボランティアの協力を得て、小中学校における盲導犬総合学習に講師を派遣、講演・実演・体験歩行会等の実施により、盲導犬と視覚障がい者について正しい情報・知識を提供する。

4. 一般社会への啓発活動

総合訓練センターにおいて、一般見学会を毎月1回行う（12月は除く）ほか団体見学を積極的に受け入れ、一般社会に対して盲導犬および補助犬法について正しい情報・知識を提供する。

5. ホームページ及び協会報による広報活動

ホームページや協会報（ハーネス九州：年2回発行）等を通して補助犬に関する情報を発信する。

6. 相談業務

担当職員を配置し行政・関連団体と連携を取りながら、盲導犬使用者・ボランティア・一般市民からの苦情や相談に迅速に対応する。

《 管理部門 》

1. 財政基盤の安定

- (1) 賛助会員への新規加入の働きかけを行うとともに、会員・寄附支援者に協会報等を通して協会事業の理解と継続的支援をお願いする。
- (2) 盲導犬募金箱の新規設置先の開拓を行うとともに、既設置先へ継続的な支援をお願いする。
- (3) コスト意識を一人一人の職員に徹底し無駄な経費の削減に努める。

2. 総合訓練センター犬舎棟空調設備の改修

犬舎棟の第一犬舎空調設備について省エネ機種への更新を計画。